



大きく変わる雇用環境の中
「適職とは何か」を
じっくり考えることが大事

ジョブカフェ関センター長

金野 馨さん

新しい仕事が生まれては消えていく現代。仕事の質は大きく変化しています。

インターネットと人工知能の発達で販売業や製造業などの分野で、働く場所が減っています。

すでに会社名や業種・職種名だけでは、仕事の内容を判断できなくなっています。

仕事の内容も複雑化していて、考えたり工夫したりすることが当たり前のように求められています。

また、定年年齢の引き上げ、夫婦の共働き、外国人労働者の受け入れにより、働くカタチは変化

Interview
キーマンに
聞く

しています。労働移動（会社や仕事を変えること）が当たり前ようになっていくでしょう。

これから働く場所を選ぶのに必要なこと。それは「かつてこうだった」という固定概念を捨て変化に対応することです。

会社ではなく仕事を優先し、実際にどんな業務を行うのかを明確にしましょう。これだけでも「こんなはずじゃなかった」と後悔することがなくなります。

仕事は生き方の根幹。これからの社会は、経験を生かすことよりも、興味を持てるか、続けられるかを自分に問うことが大切です。

今年9月の一関管内の職種別求人・求職対照表

(単位：人、%、資料：ハローワーク一関)

職種	有効 求人数	有効求職者数		有効 求人倍率	
		合計	男		女
管理的	3	6	6	0	0.50
専門的・技術的	267	152	82	70	1.76
事務	109	358	104	254	0.30
販売	125	112	69	43	1.12
サービス	313	170	58	111	1.84
保安	97	13	13	0	7.46
農林漁業	29	10	7	3	2.90
生産工程	224	286	188	98	0.78
輸送・機械運転	153	88	86	2	1.74
建設・採掘	228	57	57	0	4.00
運搬・清掃・梱包等	68	206	161	45	0.33
分類不可	0	33	25	8	-
職業計	1,616	1,491	856	634	1.08
IT関連職業合計	18	54	38	16	0.33
福祉関連職業合計	218	105	27	77	2.08

*新規学卒者とパートを除く

仕事の悩みを解決

ハローワーク一関職業紹介部門の竹花克也統括職業指導官は「一関では、復旧復興や老朽インフラの再整備などに伴い、建築関連の有効求人倍率が高い。介護サービスに関係した福祉の仕事も多いのですが、求人に対して求職者が少ない傾向にあります。逆に事務や運搬・清掃・梱包の仕事は、求職者に対して求人が少ない。これらのミスマッチを少しでも解消するため、ハローワークでは福祉事業所の



一関公共職業安定
ハローワーク一関
竹花克也
職業紹介部門
統括職業指導官

説明会やIT関連の基礎知識を学ぶ職業訓練を行っている「す」と現状を語る。
また、再就職にはスキルアップと正確な情報収集が必要とも話す。
ハローワークでは、子育て世代の女性や、40歳未満の求職者に対して、就職支援ナビゲーターがマンツーマンで相談に応じてくれる。

絶対に聞いておきたい 職の今を知る 専門家の言葉

複雑化する社会構造。
求められている資質の変化。
どれだけ柔軟に対応できるかが鍵を握る。



働くことを生きがいにする地域

しごと

4th Chapter 「Job」

●第4章

一関の雇用情勢

安定した雇用の場があることも「住みよいまち」の条件の一つだ。一関は、岩手県南・宮城県北の『中東北の拠点都市』として、また、国際リニアコライダー（ILC）の有力な候補地として注目されている。

市は、一関で働きたいという多くの声に応えるため、農業経営体の育成、企業誘致、起業や創業の支援など、雇用情勢の改善に努めている。

有効求人倍率は、労働市場全体の需給状況を表すもので、仕事を探している人（求職者）1人に対して、求人がどれくらいあるかを示した数値。岩手県の今年9月の有効求人倍率（新規学卒者除く）は1・29倍、一関管内は1・25倍。景気の緩やかな回復の兆しが見える。

しかし、賃金や雇用条件に折り合いがつかず、求人はあるものの、雇用に結びつかないケースも多い。雇用率だけではなく、雇用の質にも目を向け、企業と行政が一体となって一関の雇用対策に取り組むことが必要だ。

小野寺雄馬さん 社会福祉法人ふじの園に勤務

一関は「帰ってきたい」まち

大学時代に、ボランティアでふじの園へ。子供たちの笑顔が印象的で就職を決めました。一関には、友人やお気に入りの店がたくさんあります。一関に戻ったとき「おかえり」と言ってくれた友人や家族に恩返しできればうれしい。



立川正和さん 大東町でトマト栽培に取り組む

書店員からトマト農家へ転身

東京で開かれていた「農業人フェア」で、偶然、一関のブースに入りました。実際に農家民泊体験などで一関の情報を集め、昨年、移住しました。自己管理と計画的な営農で、あこがれていた農業で成功したいです。



岩山恭賀さん ボルダリングジム Crager'sを開業

シャッター街をなんとかしたい

東京で美容師をしているときにボルダリングにハマり「いつかジムを」と思っていました。実家が藤沢町だったこともあり、2013年、一関にジムをオープン。夢は、ワールドカップに出るクライマーを輩出することです。



西田彩音さん 緑のふるさと協力隊として活躍

派遣はショートステイが契機

大東町大原に住んでいます。下内野集落に20代は私だけ。外から来たわたしに、とても優しくしてもらっています。娯楽は少ないけれど、濃密な人とのつながりがうれしい。一関への移住も将来の選択肢に入っています。



一関で働く理由とは？

UIターン物語

働く場所として一関を選択した人たちがいる。首都圏などから移住してきた人たちは、さまざまな専門技術、知識、情報を持っている。UIターン者の活躍によって、地域に新たな風が起きている。

石塚雄太さん Cafe&Bar mojoを開業

異業種交流でもっとまちを面白く

東京に住んでいた頃、同級会で級友に出会い「みんなが帰ってくる場所を作りたい」と思うように。異業種の人たちとの交流をきっかけに店舗を見つけられました。こだわりを貫きながら、愛される店を目指します。

